

(企業内保育所ではなく)  
「保育所内企業」

---

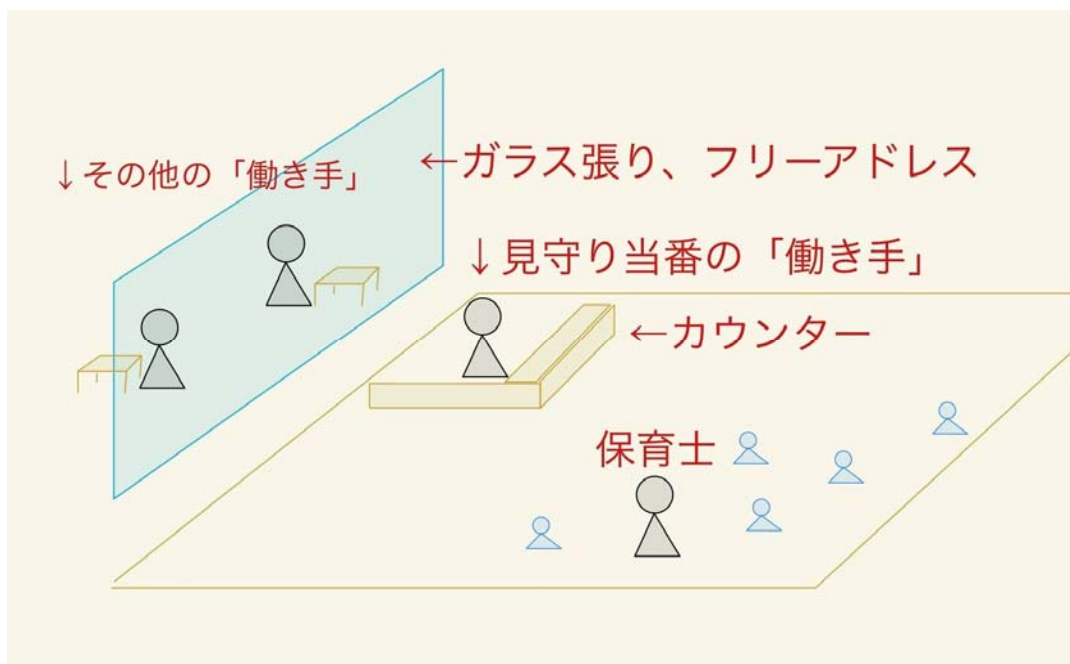
# 1.何を提案するのか

- リモートワーク・フリーランス・ノマドワーカー等の働き手が（自宅やカフェ、貸しオフィス等ではなく）保育所内で勤務し、子供たちを見守り、時に保育士の手伝いをする保育所
- 見守る働き手は対価として、謝金、もしくはオフィス・保育施設を無料もしくは安価で利用できる。

## 2.提案の背景

- ネガティブな要素として
  - ・労働人口の減少
  - ・子育て／仕事の両立の困難さ
  - ・保育所・保育士の不足
  
- 社会の変容として：働き方の多様化
  - ・リモートワーク
  - ・副業の容認
  - ・フリーランス等の増

### 3.提案のイメージ



- 勤務場所を問わない働き手を、保育士の助手を兼ねて登録。
- 働き手はフリーアドレス、一部保育スペース内で当番として保育士の補助
- フリーアドレスの働き手は、カメラで様子を見ながら自身の仕事を進め、時折手伝い
- 保育士は資格を要する仕事に専念

## 4.提案が何をもたらすか

### ○保育士の負担軽減

- ・「人手」と「見守り」の頭数の増
- ・見守る人は登録している「働き手」：身元がわかることによる安心感

### ○子供の社会性の育み

- ・多様な人に触れることで社会性が育つことの期待
- ・「社会で子育て」

## 5. 課題

### ○「保育所」の法的要件

- ・ 認可保育所：施設要件厳しい

↓

- ・ 認可外保育所：保育士の設置基準は  
「人数」ではなく「割合」  
(厚生労働省：認可外施設指導監督基準)

## 6.課題へのアプローチ案

(1)設置届が不要のものにとどめる

→×規模が小さくなり、目的を果たせない

(臨時的だったり、商業施設等の顧客用だったり…)

(2)保育に携わる学校に併設もしくは誘致

→△設けられる場所の制約が大きい

(見守る働き手が集まるか…)

⇒ある程度人が集まりやすい場所に

オフィス付き保育所を設ける動きができれば…

## 7.保育でなくとも…

「社会で見守る」仕組みは他分野にも活かさないだろうか

- ・ 介護（→学生と高齢者のシェアハウスという事例あり）
- ・ 学童保育
- ・ 中高生の部活動

…



## 8.おわりに

- 少子化・高齢化・世帯の縮小化・人口減少の世の中では、お互いの結びつきを強くする必要
- 色々と課題や不安もあるかもしれないが、ひとまず、「手伝い・気配りの頭数を増やし」、「多様な人が関わる機会も増やす」仕組みを考えたもの
- 月並みな言葉であるが、人々の関わりが増えることで社会が豊かになることの期待
- 保育にこだわったのは、共働きが増える中で、子育て世代（介護世代も）の余暇も増やせないか。純粹な時間だけでなく、気持ちの余裕の意味でも。

そのような夢を描いてのアイデアでした。

以上